

カトリック山手教会月報

やまて

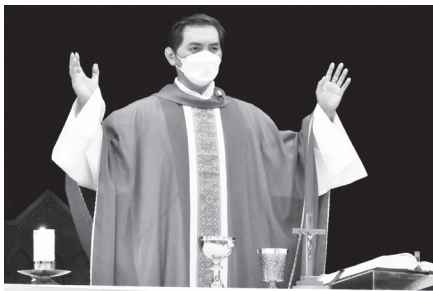


編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第637号 2023年3月12日

西村英樹助任司祭 主日ミサ

2023年1月15日 年間第2主日 A年
マルコ福音書 2章 13-17節



きょうの朗読箇所は「主に呼ばれる」という「召命」と、神が示されたことを「証し」する「宣教」という二つのことがテーマになっています。

神父になってから「どうしてこの道を選んだのですか?」とよく聞かれます。特に歳をとってからの召命なので、何か特別な確信にいたる体験があったのではないかと、そんな期待に顔を輝かせて質問されることも少なくありません。しかし、この質問は回答がなかなか難しいです。一言で説明できるものでもありませんし、何かドラマティックなことが起こったからとか、ある日、ある時、何か超常的な神秘体験をしたから、ということもそうそうないでしょう。仮にあったとしても、そうしたことは、胸の中に秘められた個人的体験で、あまり人前で披露することができるものでもありませんし、あきれくらい主観的な話で「え?そんなことがきっかけなの?」というものが多いように思います。あえて言えば、小

さな経験、きっかけが積もり積もって、この道に自分は呼ばれているのでは?という思いを抱く。そして、それに応える幸せを思うと、胸の高まりを感じずにはおれない自分がある。そんなことが、自分の召命の識別になっているように思います。

今よりもいっくらか若い時分「自分を認めてもらいたい」「何かで成功したい」そうした思いにとらわれ、焦り、少しずさんだ生活をしていました。結果、どん詰まり、窮地に立たされたことが何度かあります。「なぜ自分はこうなんだろう?」「なぜいつも同じような失敗をするんだろう?」「自分は一体何を望んでいるのか?」思い悩む時期が長く続きました。

家庭の環境や親の教育、幼児期の体験、理由は、さまざまですが、うまく人生を生きられない人がいます。自分も家庭環境や幼児期の体験に原因があるのではないだろうか?そんな風に考えるようにもなりました。人間は、両親や家庭環境を選んで生まれることはできません。しかし、両親のそのまた両親もなんらかの問題を抱えます。十全な家庭環境などあるはずがない。善くしよう、そこから抜け出そうと行動しても結果は同じ。絶望的に思いました。

救いのひかりは、突然やってきました。ある朝、いつものように、このことを考えていますと「キリストの十字架を信じよう」という思いが湧いてきました。パウロは「わたしたちは信仰によってキリストの死と復活に結ばれる」といいます。恥ずかしながら、その時、キリストの十字架の、本当の意味がわかったのです。わたしたちが、信仰をもってキリ

ストの十字架を見上げるとき、イスラエルの民が荒野で掲げられた蛇を見上げたように、わたしたちも一度人生が終わるのだ。そして、キリストの命を頂いて共に復活に与かっている。このことを理解したとき、すべては、つながったように思いました。その時、世界が変わって見えました。なにもかもが、すばらしく、新しく見え、感謝の心が湧いてきます。

先ほど読まれた第2朗読で、パウロは「至るところでわたしたちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人と共に、キリスト・イエスによって聖なる者とされた人々、召されて聖なる者とされた人々へ。」と言って、自分たちは一体何者なのか？救いの源は何なのか？を思い起こさせています。きょうのイザヤ書であるように「イスラエルを集めるために母の胎にあったわたしを御自分の僕として形づくられた主」は、わたしたちの全ての人格を通して、ご自身を証しすることを望まれます。神は、生きておられる神なのです。

救いの歴史。それは、わたしたち個人の救いへと直結しています。そのことを思うとき、喜びと共に力が湧きます。「暗闇であなたがたにいうことを、明るみで言いなさい。」「耳打ちされたことを、屋根の上で言い広めなさい」暗闇のつらい経験から、救いを得ました。それは、人に語るのをはばかりる経験であることも多いでしょう。しかし、圧倒的な救いの恵みが与えられたことを忘れません。「覆われているもので現されないものではなく、隠されているもので知られずに済むものはない」のです。

きょうの福音書で洗礼者ヨハネは「わたしはこの方を知らなかった。」が「この方がイスラエルに現れるために、わたしは、水で洗礼を授けに来た。」と自身の行ったこと、その「召命」の意味を、イエスに出会って知りました。神によって示されて「この方こそ神の子である」と「証し」しています。「世の罪を取り除く神の小羊」と、割かれるご聖体を見ながら、きょうも唱えます。そして「主よあなたは神の子キリスト、永遠の命の糧、あなたを置いて誰のところに行きましょう」と高らかに宣言します。「イエス・キリストは、(この人たちと)わたしたちの主である」のです。「わたしたちの父である神と

主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがあるように。」

この言葉に勇気づけられながら、キリストの救いを証しする者となりましょう。